

些細なことも大事な

臨床発達系の学会に参加しました。そこで興味深い話を聞きました。
小中学校への不登校者は増加しており、特にコロナの流行を契機に増えたと言われています。ですが実は増加はその前から始まっていて、推測できる要因の一つに、大量採用された教員の定年退職があるそうです。

この世代の先生方はどのような工夫を教育にされていたのでしょうか。

一例として、ある定年退職された先生は現役の頃、担当したクラスのその時間の座席表をつくっていて、その時間に欠席した生徒を毎回チェックしたそうです。

次の時間にその生徒が出席しているのを前回の座席表から確認すると、「前にも言った通り、このあたりの問題は重要だから定期試験にだすぞ」と再度おっしゃったそうです。

つまり欠席した生徒が不利にならないよう、もう一度情報を流したのです。

そんなことは生徒が自分で聞きに行けばよく、たいした話ではないとも思われます。

しかし、試験終了後に生徒がその情報を知れば、自分だけがのけ者扱いされたと思いかねません。仮に学校になじめていなければそれは加速するでしょう。不登校の原因は複雑で一つではありませんが、試験の情報を知らないということは「自分はここにもいないともいい存在」
と思うかもしれません。でも残念ながら現在の多忙な教育現場にこのような対応を望むのは現実的に不可能です。

ところで幼稚園児で不登校はあまり聞きませんが、行き渋りは結構あります。

ある幼稚園で、来たり来なかったりする年長の男の子が携帯でのゲーム好きだと聞いたので、「一度幼稚園でゲームをさせてみたらどうですか」とアドバイスしたことがあります。主任の先生方は、恐る恐るゲームの準備もして職員室でやってみたそうです。すると楽しそうに10分ほどゲームをしてから、急に教室に行くと言い出し、そのまま降園まで過ごしたそうです。もっと早く試してみればよかったとおっしゃっていました。

幼稚園教諭でない、少し外れた私のアイディアは渦中の方には思いつかないかもしれません。

些細なこと、効果が見込めるか定かでないこと、そんなことを思いつく多様な人がいる、そんな集団が長持ちしそうです。